

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	星城大学
設置者名	学校法人名古屋石田学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
経営学部	経営学科	夜・通信	/		50	62	13	/
		夜・通信		12				/
リハビリテーション学部	リハビリテーション学科	夜・通信			51	58	13	/
		夜・通信		7				/
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<http://www.seijoh-u.ac.jp/guide/guide-information/guide-information-public/index.html>

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	星城大学
設置者名	学校法人名古屋石田学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<https://www.n-ishida.ac.jp/top/secure/yakuinmeibo.pdf>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	弁護士	2019.4.1 ~ 2023.3.31	経営全般に対する 助言
非常勤	会社役員	2019.4.1 ~ 2023.3.31	経営全般に対する 助言
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	星城大学
設置者名	学校法人名古屋石田学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>1. 毎年11月～12月にかけて、科目担当教員を決定し、シラバス作成に着手。</p> <p>2. 本学の「シラバス作成ガイドライン」を各教員に配布。</p> <p>3. 1月下旬、各教員が学内ポータルサイト経由で提出した原稿内容を教務委員会で点検。修正及び再提出を依頼。2月下旬頃、教務委員会にて最終承認。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義科目名称・開講期間・配当年・単位数・必選区分・担当教員名・時間数は学則別表を基準として事務局が学生ポータルサイトに事前登録。 ・シラバス作成ガイドラインもとづき、下記項目を教員が作成し、学生ポータルサイトに入力。 <p>「授業の方法」(講義形式以外の演習・実習・実験の場合は科目名称に記載。)</p> <p>「授業目標・到達目標」(200～250字で具体的な目標で。)</p> <p>「授業計画・内容」(一覧表として毎授業ごとの内容を25字以内で箇条書き。)</p> <p>「履修注意」(注意事項。)</p> <p>「評価方法」(試験、出欠、授業態度等、基準を明確に。)</p> <p>「試験について」(実施の有無やレポート、実技試験などについて。)</p> <p>「予習・復習」(要点等)</p> <p>「教科書」(購入の可否等)</p> <p>「参考書」(可否等)</p> <p>「その他注意事項」</p> <p>「授業評価アンケートの結果による改善点等」(昨年度実施時の結果を踏まえた改善点を提示)</p> <p>「備考・メッセージ」担当教員からの備考・メッセージ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・以上のように「授業計画(シラバス)」を作成し、年度当初に学内ポータルサイトへ掲載。また、ホームページより「学内ポータルサイト」へリンクするよう設定し公表する。 	
授業計画書の公表方法	<p>(経営学部)</p> <p>http://www.seijoh-u.ac.jp/business/business-syllabus/</p> <p>(リハビリテーション学部)</p> <p>http://www.seijoh-u.ac.jp/reha/reha-syllabus/</p>

<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>授業計画（シラバス）へ「到達目標」「履修注意」「評価方法」「試験について」を明記。「評価方法」を元に評価し単位を授与する。学部ごとの「ディプロマポリシー」に基づいて学位授与を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・履修登録・変更はWeb上（学生ポータルサイト）にて所定期間内に学生が自己登録。履修登録の上限は半期 24 単位、年間 48 単位。ただし、GPAが 4.0 以上の場合は半期 30 単位までとする。同一時限で複数の科目を重複して登録することはできず、登録していない科目は単位を取得できない。 ・履修科目は、試験・レポート・授業態度・出席状況等で判定され、その評価は、S・A・B・C及びDで表わされ、C以上（S・A・B・C）で単位を認定。 ・試験は、科目講義の開講学期末に定期試験を原則全科目で実施。実習系科目およびゼミナールなどについては、実技・課題作成・レポートなどをもって、定期試験に換える場合がある。定期試験を受験するためには、授業時間数の3分の2以上の出席が必要。 ・定期試験で単位取得が認められない場合、科目担当教員が当該科目の再試験を受験させることを適当と判断した者に対し再試験を行う。再試験に合格の場合は、C評価。科目担当教員は、病気その他の止むを得ない事由により定期試験を受験できなかった学生から追試験の申し出があった場合、当該学生に対して、追試験を行う。 	
<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p>	
<p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・履修科目は、試験・レポート・授業態度・出席状況等で判定され、その評価は、S・A・B・C及びDで表わされ、C以上（S・A・B・C）で単位を認定。教員による評価は、Sで点数が「90～100」、Aが「80～89」、Bが「70～79」、Cが「60～69」。 ・GPAは、GP（グレードポイント）を使って計算。GPは、S・A・B・C評価に対し、それぞれ5・4・3・2点。各科目のGPに単位数をかけ、その合計を取得総単位数で割って計算。 ・授業計画（シラバス）内に明記した「評価方法」を元に成績評価を行う。成績評価を元にGPAを算出している。また、「科目別合格率」・「科目別単位授与数」の算出を行っている。 	
<p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p>	<p>(経営学部)</p> <p>http://www.seijoh-u.ac.jp/guide/guide-information/guide-information-public/education-business.html</p> <p>(リハビリテーション学部)</p> <p>http://www.seijoh-u.ac.jp/guide/guide-information/guide-information-public/education-reha.html</p>

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

【経営学部】

○認定方針

- ・カリキュラムポリシーに基づいた「学習成果の評価」を行い、ディプロマポリシーに基づき「卒業認定」を行う。
- ・知識・技能：習得した経営学の知識と管理の技能により、文章力や課題を解決する能力を身に着けている。
- ・思考力・判断力・表現力：卒業論文の作成を通じて身につけた、論理的な思考力や創造性を発揮できる。組織社会において強調性や表現力、コミュニケーション能力を発揮できる。
- ・主体性・多様性・協働性：多文化社会に適応し、他者に対する思いやり、報謝の至誠と感謝の真心を持ち、企業や社会のルールやマナーを理解し、行動できる。

○適切な実施に係る取組み

- ・GPA、卒業論文審査（主査と副査による）等により厳格に達成度を評価する
- ・学則に卒業等の要件を定める。
「本学に4年以上在学し、本学則に定める授業科目及び単位数を修得した者については、学長が卒業を認定する。学長は、卒業を認定した者に対して卒業証書・学位記を授与する。卒業の時期は、3月とする。ただし、要件を満たしかつ学生の申請があれば秋季（9月）の卒業を可能とする。」
- ・卒業判定は各学部の教務委員会において審議し、教授会の議を経て、学長が決定。

【リハビリテーション学部】

○認定方針

- ・カリキュラムポリシーに基づいた「学習成果の評価」を行い、ディプロマポリシーに基づき「卒業認定」を行う。
- ・豊かな人間性をもって、保健・医療・福祉領域における多様な要請に柔軟・適切に対応できる基本的能力を持つ。
- ・リハビリテーションチームの一員として、理学療法あるいは作業療法の専門知識と高い技術水準を持ち、職責を果たす。
- ・保健・医療・福祉の各領域における事象から問題点を抽出し、調査・研究に取り組み、その成果を適切にプレゼンテーションでき、応用できる能力を持つ。

○適切な実施に係る取組み

- ・学則に卒業等の要件を定める。
「本学に4年以上在学し、本学則に定める授業科目及び単位数を修得した者については、学長が卒業を認定する。学長は、卒業を認定した者に対して卒業証書・学位記を授与する。卒業の時期は、3月とする。ただし、要件を満たしかつ学生の申請があれば秋季（9月）の卒業を可能とする。」
- ・卒業判定は各学部の教務委員会において審議し、教授会の議を経て、学長が決定。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

(経営学部・ディプロマポリシー)
<http://www.seijoh-u.ac.jp/business/business-overview/index.html>
(リハビリテーション学部・ディプロマポリシー)
<http://www.seijoh-u.ac.jp/reha/reha-overview/index.html>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	星城大学
設置者名	学校法人名古屋石田学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.n-ishida.ac.jp/top/secure/R03kessan.pdf
収支計算書又は損益計算書	https://www.n-ishida.ac.jp/top/secure/R03kessan.pdf
財産目録	https://www.n-ishida.ac.jp/top/secure/R03kessan.pdf
事業報告書	https://www.n-ishida.ac.jp/top/secure/R03kessan.pdf
監事による監査報告(書)	https://www.n-ishida.ac.jp/top/secure/R03kessan.pdf

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	
中長期計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: http://www.seijoh-u.ac.jp/guide/guide-information/guide-information-evaluation.html

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法:

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 経営学部
教育研究上の目的（公表方法： http://www.seijoh-u.ac.jp/guide/guide-information/guide-information-public/foundation.html ）
（概要） 建学の精神「彼我一体（報謝の至誠・文化の創造・世界観の確立）」に基づき、報謝の至誠・感謝の真心を持ち、真摯に他者と自己と向き合い、力を尽くして目標に向かって行動する、信頼できる人柄とビジネス社会で活躍できる生きた知識と能力を備えた即戦力のある人材の育成を教育の目標とする。
卒業の認定に関する方針（公表方法： http://www.seijoh-u.ac.jp/business/business-overview/index.html ）
（概要） ディプロマポリシー 定められたカリキュラムを学修し、卒業要件を満たすことで、以下の能力・資質を身につけることを目指す。 (1) 知識・技能 修得した経営学の知識と管理の技能により、文章力や課題を解決する能力を身につけている。 (2) 思考力・判断力・表現力 卒業論文の作成を通じて身につけた、論理的な思考力や創造性を発揮できる。組織社会において強調性や表現力、コミュニケーション能力を発揮できる。 (3) 主体性・多様性・協働性 多文化社会に適応し、他者に対する思いやり、報謝の至誠と感謝の真心を持ち、企業や社会のルールやマナーを理解し、行動できる。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： http://www.seijoh-u.ac.jp/business/business-overview/index.html ）
（概要） カリキュラムポリシー ディプロマポリシーに掲げる人材を育成するため、次のような教育内容、教育方法、学修成果の評価の方針に沿ったカリキュラム編成と教育を行う。 【教育内容】 (1) 経済社会の多様なニーズに対応するため、多様化する経営分野の学びにより専門性を深め、ビジネス社会における実践力を高める。 (2) 報謝の至誠・感謝の真心、幅広い教養と経営専門能力を育成するため、カリキュラムに共通科目群、専門科目群を設定するとともに、経営学の学び分野ごとに推奨する科目群も設定する。 (3) 自分の世界観を確立し、また、グローバル社会に対応するため、語学力を重視するとともに、積極的に異文化交流を推進する。 【教育方法】 (1) 1 年生からゼミナールなどの演習による学生への個別指導を行い、また面談などを通じて、学生との質疑応答形式などにより個々の学生に応じた教育を推進し、学生の思考力やコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力などを高める。 (2) 企業や地域社会、国際社会などの仕組みを理解できるセミナーやインターンシップ、演習、キャリア教育により実践力や社会的基礎力を高める。

(3) 卒業論文の作成により主体的な学習や研究を促進し、思考力、創造性、ITの活用能力を開発するとともに、発表や優秀論文の顕彰を通じて、その水準の向上を図る。

【学修成果の評価】

- (1) シラバスに単位取得の条件を記載し、出席や授業態度を含む厳格な成績評価を行う。
- (2) GPA、卒業論文審査（主査と副査による）等により厳格に達成度を評価する。
- (4) 進級規定を設けて、到達度を評価する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：<http://www.seijoh-u.ac.jp/business/business-overview/index.html>）

（概要）

アドミッションポリシー

下記のような資質・知識・能力等を持つ学生を求めて、多面的・総合的な評価制度を入学選抜の基本方針とする。

- (1) 前向き・積極的で、チャレンジ精神を持った人
- (2) 向上心があり、主体的に学修に取り組む人
- (3) 異文化や現代社会のさまざまな事象に関心を持つ人
- (4) クラブ活動やボランティア活動など課外活動への参加体験を通じて身につけた、多様な人々との協働活動に前向き・積極的に参加する意欲とチャレンジ精神
- (5) 主体的な授業参加や適切な課題提出を通じて身につけた基礎的な知識と技術
- (6) 探求的な学びとその成果発表を通じて身につけた思考力・判断力・表現力
- (7) 国内外の出来事に関心を持ち、市場動向や国際社会の変化に注意深く観察する姿勢

学部等名 リハビリテーション学部

教育研究上の目的（公表方法：<http://www.seijoh-u.ac.jp/guide/guide-information/guide-information-public/foundation.html>）

（概要）

豊かな人間性、確かな知識・技術を背景とした実践力と研究的・教育的資質を兼ね備えた指導的役割を果たす専門家の育成を目指す。

卒業の認定に関する方針（公表方法：<http://www.seijoh-u.ac.jp/reha/reha-overview/>）

（概要）

ディプロマポリシー

下記の内容を修得し、所定の単位を修めることで卒業を認定する。

- (1) 豊かな人間性をもって、保健・医療・福祉領域における多様な要請に柔軟・適切に対応できる基本的能力を持つ。
- (2) リハビリテーションチームの一員として、理学療法あるいは作業療法の専門知識と高い技術水準を持ち、職責を果たす。
- (3) 保健・医療・福祉の各領域における事象から問題点を抽出し、調査・研究に取り組み、その成果を適切にプレゼンテーションでき、応用できる能力を持つ。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：<http://www.seijoh-u.ac.jp/reha/reha-overview/>）

(概要)

カリキュラムポリシー

- (1) 人間にやさしく社会性豊かな資質を備えた人材の育成のために、教養課程で文化教養ゼミを設け、医療現場や社会問題をテーマにした少人数制体験型授業を通して、多角的な視点から問題を探求し、解決策を模索する姿勢、倫理観・責任感を育成する。また、ネイティブ英語教師による少人数制英語授業を実施し、異文化に対する興味・理解を深め、国際人としてのコミュニケーション能力を養う。
- (2) 心身の障害を科学的に分析し、学問として探求できる資質の育成のために基礎専門教育科目を通して、必要な基礎知識を修得し、演習および実習によるグループディスカッションおよびプレゼンテーションを介して医学に関する深い関心と主体的な学習態度を養い、問題の本質を見抜く洞察力と判断力を育成する。
- (3) 障害構造の重要性を認識し、日常生活活動 (Activity of Daily Living : ADL) および生活環境に注目して、生活の質 (Quality of Life) に結びつける思考過程を重視する。また、地域包括ケアシステムを見据えたカリキュラムを構築することで、実生活をサポートしていくための専門技術を修得する。加えて、研究法を通じて障害に対する科学的思考能力も育成する。
- (4) 専門教育では理学療法および作業療法における心身の障害に焦点をあてた講義および演習・実習を通してリハビリテーションチームの一員としての医療・保健・福祉領域で求められる実践能力を育成する。また、各科目内に随時発表会を設け、柔軟で独創性のある理学療法・作業療法プログラム作成能力や医療人としてのコミュニケーション能力を育成する。
- (5) これらを通じた勉学の集大成が学外実習と卒業研究であり、大学で身につけた知識、専門技術、研究方法、科学的思考等を活用し、成果を結実できるよう丁寧な個別指導を行い、成果の発表とフィードバックを行う。

入学者の受入れに関する方針 (公表方法 : <http://www.seijoh-u.ac.jp/reha/reha-overview/>)

(概要)

アドミッションポリシー

リハビリテーション学部では、保健・医療・福祉の心とそれらの基本を学び、思いやりの心、信頼される専門能力を有する理学療法士、作業療法士を育成する。そのために、下記のような学生を求めて、多面的・総合的な評価制度を入学選抜の基本方針とする。

- (1) 高い目的意識のある人
- (2) 強い意志のある人
- (3) 実践力のある人
- (4) 探求心のある人
- (5) 人間性豊かな人

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法 : <http://www.seijoh-u.ac.jp/guide/guide-organization/guide-organization-campus.html>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	2人	—					2人
経営学部	—	14人	10人	5人	1人	0人	30人
リハビリテーション学部	—	10人	6人	4人	4人	0人	24人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0人		45人					45人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法：【経営学部】 http://www.seijoh-u.ac.jp/professor_information/businessadministration/ 【リハビリテーション学部】 http://www.seijoh-u.ac.jp/professor_information/rehabilitation/					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
経営学部	300人	203人	68%	1,200人	1114人	93%	—人	1人
リハビリテーション学部	80人	75人	94%	320人	295人	92%	—人	0人
合計	380人	278人	73%	1,520人	1409人	93%	—人	1人
(備考)								

b. 卒業者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
経営学部	212人 (100%)	5人 (2.4%)	189人 (89.2%)	18人 (8.5%)
リハビリテーション学部	85人 (100%)	1人 (1.2%)	77人 (90.6%)	7人 (8.2%)
合計	297人 (100%)	6人 (2.0%)	266人 (89.6%)	25人 (8.4%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)

1. 毎年11月～12月にかけて、科目担当教員を決定し、シラバス作成に着手。
2. 本学の「シラバス作成ガイドライン」を各教員に配布。
3. 1月下旬、各教員が学内ポータルサイト経由で提出した原稿内容を教務委員会で点検。修正及び再提出を依頼。2月下旬頃、教務委員会にて最終承認。

- ・講義科目名称・開講期間・配当年・単位数・必選区分・担当教員名・時間数は学則別表を基準として事務局が学生ポータルサイトに事前登録。
- ・シラバス作成ガイドラインもとづき、下記項目を教員が作成し、学生ポータルサイトに入力。

「授業の方法」（講義形式以外の演習・実習・実験の場合は科目名称に記載。）

「授業目標・到達目標」（200～250字で具体的な目標で。）

「授業計画・内容」（一覧表として毎授業ごとの内容を25字以内で箇条書き。）

「履修注意」（注意事項。）

「評価方法」（試験、出欠、授業態度等、基準を明確に。）

「試験について」（実施の有無やレポート、実技試験などについて。）

「予習・復習」（要点等）

「教科書」（購入の要否等）

「参考書」（要否等）

「その他注意事項」

- ・以上のように「授業計画（シラバス）」を作成し、年度当初に学内ポータルサイトへ掲載。別途冊子を作成し新入生へ配布する。また、ホームページより「学内ポータルサイト」へリンクするよう設定し公表する。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)				
<ul style="list-style-type: none"> 履修科目は、試験・レポート・授業態度・出席状況等で判定され、その評価は、S・A・B・C及びDで表わされ、C以上（S・A・B・C）で単位を認定。 試験は、科目講義の開講学期末に定期試験を原則全科目で実施。実習系科目およびゼミナールなどについては、実技・課題作成・レポートなどをもって、定期試験に換える場合がある。定期試験を受験するためには、授業時間数の3分の2以上の出席が必要。 定期試験で単位取得が認められない場合、科目担当教員が当該科目の再試験を受験させることを適当と判断した者に対し再試験を行う。再試験に合格の場合は、C評価。科目担当教員は、病気その他の止むを得ない事由により定期試験を受験できなかった学生から追試験の申し出があった場合、当該学生に対して、追試験を行う。 学則に卒業等の要件を定める。 「本学に4年以上在学し、本学則に定める授業科目及び単位数を修得した者については、学長が卒業を認定する。学長は、卒業を認定した者に対して卒業証書・学位記を授与する。卒業の時期は、3月とする。ただし、要件を満たしかつ学生の申請があれば秋季（9月）の卒業を可能とする。」 進級および卒業判定は各学部の教務委員会において審議し、教授会の議を経て、学長が決定。 				

学部名	学科名	卒業に必要な単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
経営学部	経営学部	124 単位	有・無	単位
		単位	有・無	単位
リハビリテーション学部	リハビリテーション学部	128 単位	有・無	単位
		単位	有・無	単位
GPAの活用状況 (任意記載事項)		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：
○ http://www.seijoh-u.ac.jp/life/life-campus/
○ http://www.seijoh-u.ac.jp/labo/

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
経営学部	経営学科	600,000 円	250,000 円	320,000 円	
		円	円	円	
リハビリテーション学部	リハビリテーション学科	800,000 円	250,000 円	720,000 円	
		円	円	円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

<p>a. 学生の修学に係る支援に関する取組</p> <p>(概要)</p> <p>【学習サポート】 本学では、学生の学びたい意欲に応えるため、さまざまなサポートを提供。</p> <p>○資格・検定取得支援講座</p> <ul style="list-style-type: none">・日本語能力試験 N1・N2 対策講座、MOS (Excel、Word) 講座、しごとに役立つ 25 資格取得講座 (オンデマンド) などを開講し、卒業後の希望進路に合わせた資格取得の促進を図っています。 <p>○TOE I C 講座</p> <ul style="list-style-type: none">・TOE I C で高得点を目指す学生のために、展開科目として、「TOE I C 英語 I ~ III」を用意しています。 <p>○留学支援</p> <ul style="list-style-type: none">・本学では、海外のいくつかの教育機関と提携関係にあり、国際交流を進めており、国際ビジネスコースに属す学生には、1 年間アメリカ・中国・台湾・韓国などの各国・地域で学ぶ可能性が与えられます。さらに、国際交流委員会によるアメリカや韓国、台湾への短期のスタディツアーも企画・実施。留学を希望する学生には、教員が個別に情報を提供して、世界にはばたきたい学生をバックアップ。
<p>b. 進路選択に係る支援に関する取組</p> <p>(概要)</p> <p>○キャリア支援課スタッフによるキャリア個人面談の実施</p> <ul style="list-style-type: none">・毎年、1 ~ 3 年生 (経営学部対象) 全員に対して、キャリア個別面談を実施し、3 ~ 4 年生 (全学部対象) には各自の就職活動進捗に合わせて、随時、個別進路面談を実施 <p>○就職活動支援講座などの開催</p> <ul style="list-style-type: none">・各種就職対策講座、面接練習会、学内業界企業研究会 (経営学部対象)、求人説明会 (リハビリテーション学部対象)、履歴書添削の個人指導などを実施。 <p>○新卒求人情報の提供</p> <ul style="list-style-type: none">・企業から寄せられた最新の求人情報などは、いつでも学生が見たいときに学内システムを通じて確認でき、また、大学指定の履歴書・応募封筒は無料配布を行っている。 <p>○外国人留学生への就職活動支援</p> <ul style="list-style-type: none">・公的機関主催の外国人留学生インターンシップ事業への参加支援や外国人留学生を対象とした企業説明会を実施
<p>c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組</p> <p>(概要)</p> <p>○学生相談室と医務室を設置。</p> <ul style="list-style-type: none">・学生相談室では、日常生活を送っていく上で出会う問題意識やいろいろなことについての悩み、友人関係、恋愛、勉強、ご家族との関係、健康上の不安、部活動、アルバイトや進路の悩みなど、対話を通して相談員と一緒に考えます。・医務室では、(1) 簡単な怪我や病気の応急処置や休養、慢性的な病気との付き合い方など、心身の健康に関することの相談。(2) 身長・体重・血圧・体温・体脂肪率・内臓脂肪レベル・筋肉量・基礎代謝量・体内年齢・推定骨量などを測定。(3) 定期健康診断後のフォローアップと健康相談。(4) 必要に応じて学生相談室とも連携。 <p>○学校保健安全法にもとづいて毎年 4 月、定期健康診断を実施。</p>

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：http://www.seijoh-u.ac.jp/news/news_category/news_gakkai/

(別紙)

※この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校名	星城大学
設置者名	学校法人名古屋石田学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		72人	70人	76人
内 訳	第Ⅰ区分	45人	44人	
	第Ⅱ区分	17人	18人	
	第Ⅲ区分	－人	－人	
家計急変による支援対象者（年間）				－人
合計（年間）				79人
(備考) 家計急変による支援対象者3名の内1名は後半期（2021年10月）より平常化となったため、後半期の支援対象者に含めております。				

※本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のもの に限り、認定専攻科を含む。） 、高等専門学校（認定専攻科を含む。） 及び専門学校（修業年限が2年以下の ものに限る。）	
	年間	前半期	後半期	
修業年限で卒業又は修了 できないことが確定	— 人	人	人	人
修得単位数が標準単位数 の5割以下 (単位制によらない専門学校に あつては、履修科目の単位時間 数が標準時間数の5割以下)	0 人	人	人	人
出席率が5割以下その他 学修意欲が著しく低い状況	0 人	人	人	人
「警告」の区分に 連続して該当	— 人	人	人	人
計	— 人	人	人	人
(備考)				

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であつて、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡つて認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のもの に限り、認定専攻科を含む。） 、高等専門学校（認定専攻科を含む。） 及び専門学校（修業年限が2年以下の ものに限る。）			
年間	0 人	前半期	人	後半期	人

- (3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）
の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給
付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより
認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、 高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の6割以下)	0人	人	人
GPA等が下位4分の1	—人	人	人
出席率が8割以下その他 学修意欲が低い状況	—人	人	人
計	—人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。